

【テーマ2：実践の記録文書と物語りによる教師の「多重ループの学び」をオン・オフラインのハイブリッドで推進する教員研修・授業研究モデルの開発】

【福井大学】

【研究協力校】福井大学教育学部附属義務教育学校、福井市森田中学校、高浜町立高浜小学校、他連合教職大学院拠点連携校・協力校24校
【協力委員会】福井県教育委員会
【協力企業】永和システム
【対象人数】研究協力校等の教師約200名、大学院生16名（ストレートマスター13名、現職教員院生3名）

モデル開発概要

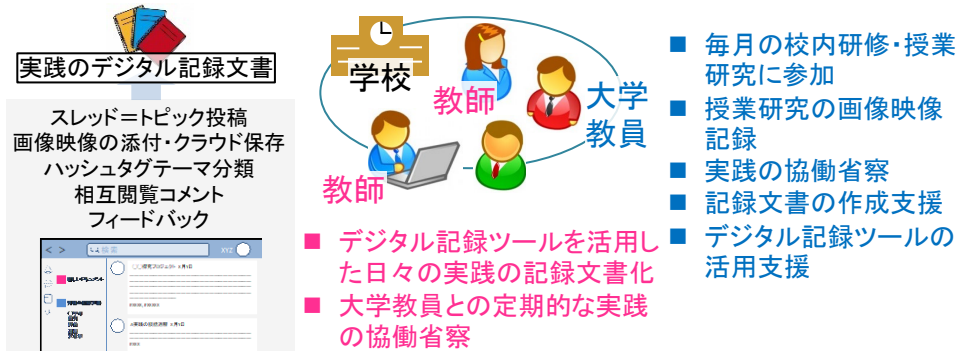
現場における課題 「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師は、同僚との実践の協働探究と協働省察を行う「多重ループの学び」を推進して、学校の課題を協働で解決する必要がある。しかし、学校現場の時間的・物理的・人的リソースの限界が、実践の協働省察を支える実践の記録文書の作成とその物語りによる協創対話の実現を阻んでいる。

モデルの概要 このモデルでは、教師による日々の実践省察を支える実践の記録化とその記録編纂による長期実践記録の文書化をスレッド型デジタル記録ツールと大学のリソースで支える。そして、そこで作成された実践の記録文書にもとづいた協働省察を行う協創対話を実装する。また、編纂された実践の記録文書は共有の教員研修教材として蓄積・活用される。

活用する技術・ツール等 スレッド型デジタル記録ツールを活用することで、日々の実践の気づきをテキスト・画像・映像で記録し、その記録を参照しながら長期の実践記録を作成できる。

高度化に資する取組

教師による実践の記録文書化を支えるデジタル・ヒューマンサポート



教師の「多重ループの学び」を実現する協創対話の実装



モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ◆ 「スレッド型デジタル記録ツール」は、日々の実践の気づきを視覚的に確認して省察しながら、長期の実践記録を文書作成・編纂するように活用するのがポイントである。
- ◆ 教師たちが作成した長期の実践記録にもとづいて実践を物語り合う協創対話の機会を創発することが重要である。
- ◆ 実践の記録文書と物語りによって教師の「多重ループの学び」が実現され、教師個々人の知識・スキルの向上のみならず、教師協働の推進、組織的な意思決定力の向上が期待される。